

トライアングル

2017
春・夏号

発行日／平成 29 (2017) 年 7 月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／松上利男 編集／中川博
〒 542-0012 大阪市中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp



第51回大阪知的障がい児・者合同ソフトボール大会 「やめんといて！」という思いを受け止めて

平成 29 年 6 月 1 日 (木) 快晴の中、例年通り大阪府久宝寺緑地公園陸上競技場に 18 チームが集まり、熱戦が繰り広げられました。今大会の様子は、7 月 11 日付けの産経新聞の記事に掲載されました。

選手からは、「楽しかった!」「来年も出場して、優勝に向けて頑張りたい!」という感想が多く聞かれました。また、選手の中には練習中のエピソードを話して下さる方もいて、「チーム内でヒットが打てない選手がいたが、練習をしていくうちにヒットを打てるようになり、試合でもヒットを打つことができ、応援していて嬉しかった」と仲間の活躍を喜ぶ様子が印象的でした。

保護者からは、「落ち着きがなかった子が、ソフトボールを通して集中して取り組むことができるようになった。ソフトボール大会に参加する前は想像することができなかった」「たとえヒットが打てなくても、ソフトボールに打ち込む様子だけで、わが子の成長を感じている」と聞き、保護者の思いを知ることができました。

職員からは、「練習が始まるまでは、喧嘩ばかりでチームがまとまるのか不安だったが、練習をしていくうちに、選手同士で励ます様子が見られるようになった。勝ち負けにかかわらず、選手同士の繋がりが感じ

(2ページへ続く)



第 51 回大阪知的障がい児・者合同ソフトボール大会	
「やめんといて！」という思いを受け止めて	1
障害者支援施設部会幹事会研修～自分を見つめなおす時間	2
●ぶらり施設訪問記●	
就労移行支援事業所・就労継続支援 B 型事業所	
GIVE&GIFT	3

●ちょっとつばきりレ●	
北摂杉の子会 作業療法士 小林 哲理	3
●委員会報告●	
広報委員会	4
平成 29 年 1 月～6 月 活動報告	4
一般社団法人大阪知的障害者福祉協会総会・研修会を開催致しました	4

リーグ	優勝	準優勝	3位
A	敷津浦学園	向陽 ALLSTARS	支援センターしらさぎ
B	サンライズ	つばさアスレチックス	支援センターさくら
C	恵生会クリエイトしき	さらの郷さらず	科長の郷
D	わららか	KIRARI'S	チーム光生会
E	中津学園	ガッツとうふく	ガッツせんぼく
F	いわき生野学園	第二博愛	四条暁福祉会



られることがソフトボール大会の良いところ」「ソフトボール大会に参加するようになってから、仲間意識が芽生え始め、例えば地域移行を目指す中で、『みんなと一緒に頑張る』といった目標を掲げて取り組む様子が見られるようになり、エンパワメントを高めることに繋がっている」という声が聞かれました。

取材を通して、選手と保護者の中から「ソフトボール大会をやめないで欲しい」という意見が聞かれました。近年、出場チームが減少している現状ではありますが、改めてソフトボール大会を続けていくことの意義と、今後も選手や保護者、ソフトボール大会に携わる関係者の思いを発信する必要性を感じた取材となりました。

(隆光学園 吉村周二)

「他の方からの意見で、自分では考えつかなかったこと、知らない用語等を知ることができた。」「自分の“こうなりたい”“こうしたい”を確認でき、みなさんの意見・発想に対してそんなこともできるのかと思うことも多く刺激になりました。」

これは、障害者支援施設部会 幹事会研修として6月5日に開催したグループワーク研修「ここで暮らせてよかったと思える施設をめざして」に参加していただいた49名の支援職員と施設長の感想です。幹事会では、支援職員の方に自分たちと同じ気持ちで働く仲間が大阪の各施設にいることを実感してもらい、明日への元気に変えていただきたいと開催しています。

「施設長の方に普段聞けないようなことも、気さくに話していただきこういった研修を受けることの大切さを感じました。」

障害者支援施設部会
幹事会研修報告
自分を見つめなおす時間

昨年度からは、グループワーク研修として施設長の皆さんにも参加いただき、管理者と支援職員との意見交流も含め縦と横の関係づくりと相互理解になればと思っています。

支援現場のみなさんは、毎日が目の前の利用者の方への支援で精一杯だと思います。だからこそ、自分の支援や施設・事業所での取り組みを確認することが必要に思います。

「グループワークでの会話を通じて、自分の施設のことも同時に考え利用者の過ごしやすさ、幸せを改めて考える機会になりました。」

また、支援の向上や改善について他施設の取り組みを刺激しながら、主体になるのは、あくまで“わたし”であることに気づく場でもあって欲しいと思っています。「人によって変わらうのは難しいが、自分が変わるのは意識的に変わる。自分自身の心に余裕をもち学んだことを活かしたい。」

「笑顔」と「あいさつ」。基本的なことですが、おろそかになっていることに気づき振り返ることができました。現場で余裕をなくし笑顔がないので大切にしたいと思います。」

これからも、みなさんが笑顔で仕事に取り組めるような研修を企画したいと思います。

「私の施設で実践していることを発表し、“すごいですね”と言われたことで“間違っていない”“大変だけどよかった”と思いました。」

みなさん、ファイト!

(障害者支援施設部会長 木村 勝也)





大阪のオフィス街の真ん中で 一緒に“はたらく”を目指そう

大阪市中央区淡路町2丁目5-11 小西酒店ビル



取材日：平成29年7月4日
取材者：かしま障害者センター
Link 水津由依
さつき園 吉岡裕幸
大和川園 杉扶早子

株式会社GIVE&GIFTは、大阪市中心部というオフィス街の中で飲食店の事業所運営をするほか、自主製品を主とした軽作業・クリエイター支援・ものづくり企業支援・観光支援・学生教育など、地域資源と多方面からのアイデアをつなぎ合わせて社会課題解決の取り組みにも力を注ぎ、社会貢献という視点からも地域社会に向けた情報発信をしています。今回は、飲食店運営を中心に、代表取締役の中川悠はるか氏にお話を伺いました。

■基本理念と大切にしている事

平成26年9月、現在もまちづくりやデザインに携わる中川氏が障がい福祉に多くの課題があると感じ、障がいのある人たちに「はたらく力・生活する力、いわば自立する力を身につけてほしい」を理念に掲げ、GIVE&GIFTを設立しました。オフィス街の立地を活かして、1階は健康や素材へのこだわりをテーマにしたコミュニティカフェ、2階は厨房となつています。1階カフェで提供するメニューは管理栄養士が監修し、利用者が調理を中心とした作業に従事しています。厨房では、1日の来客予測データ数をもとに仕込みをしています。利用者の代わりに支援員が必死になって仕込みをするのではなく、利用者が主体性を持つて作業に取り組めるよう、真空調理保存での大量調理方法を併用して作業が進められるよう工夫しています。また、厨房内の設備は一般的な飲食店のような専門

設備は置かず、あくまで家庭にある設備（炊飯器、IHコンロ、鍋など）を使用する事で、自立生活にも適応しやすいように配慮がなされています。個々の利用者が得意とする強みに着眼点を置き、作業分担を決められていて、役割と責任を上手く本人たちに伝えられていました。

■利用者への支援と都市型施設としての地域のつながり

調理や軽作業、清掃などの業務を通して、SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）をしています。身だしなみや日常的な敬語・挨拶・コミュニケーションなどビジネスマナーを始め、仕事の進め方も学ぶ対象で、仕事を振り返る時間と今後の課題について支援員が利用者寄り添い、共に考える事を大切にしています。また、地域のつながりでは、住居が少ない土地柄から、近隣企業と連携をした情報発信や店舗スペースの貸し出しなどでつながりを持っておられます。

今回の取材を通じて印象深い事は、事業所優先の支援や運営ではなく、福祉分野だけの視野でもなく社会全体の課題として物事を捉えて障がいのある方に寄り添い、主体性のある自立に向けてGIVE&GIFTの存在があるという事です。今の障がい福祉における工賃の低さや自立とはかけ離れた支援の課題、我々福祉従事者に求められる寄り添う姿勢の大切さを、改めて考えさせられた有意義な時間となりました。

北摂杉の子会 作業療法士 小林 哲理

私は、知的障がい者支援の領域で働く数少ない作業療法士の一人です。先日、訪問支援をしている支援学校高等部3年生の御家族に「学校の先生からはいつも『まずは評価をしてから』って言われるのよ!」「私たちがこんな風に暮らしたいと言っても、知能やらコミュニケーション力やら対人関係力やらADL自立度みたいな数字を出してきて、進路の判断をされてしまうのよ!」と言われました。ハッとしました。学校での進路相談で、お母様は「卒業後は少しゆっくり息子のペースで過ごしてみたい」と先生にお伝えしたところ、学校から「彼の能力の評価の結果次第でもっと働けるかもしれない」と言われたとのことです。障がいのある人は私達以上に評価を受ける機会が多く、その結果が暮らしに影響を及ぼしているようです。

「作業療法は評価に始まり評価に終わる」と言われ評価を重視します。ただし、機能障害や能力障害のみに焦点を充てるのではなく、障がいがあってもその人の願いや思いをどのように実現していくかという点での評価です。卒業後、即仕事に就いたり、支援施設に通所したりするのではなく「電車で旅に出る」「親子で海外に行く」「家で一緒に○○をつくる」、そんな選択もありではないか。作業療法士はそのために必要なものを評価し、必要な作業を提供することができます。作業療法を活用し、その方の「願いの実現」に寄り添っていきたくです。

次回は
大和川園の
杉扶早子さんに
お願いします



今年度から新たに活動を始めた広報委員会の、第二わらしべ園の丸山撮影です。会員施設の皆様に、機関紙「トライアングル」やホームページを通じて、協会活動の情報発信をしてゆきたいと考えています。とはいももの幅広い情報を発信するためには、多くの方の協力が必要です。広報委員には、これまでトライアングルの編集委員だった吉村周一さん（隆光学園）、高原良太さん（茨木学園）、水津由依さん（加島友愛会 Link）に加え、杉扶早子さん（大和川園）、吉岡裕幸さん（さつき園）にも参加して頂けることになり、勇気百倍です。いろいろなアイデアを出し合いながら、支援者の方に身近な日々の支援に役に立つものや元気を届けられるような記事内容を盛り込んでゆきたいねと話しました。

また、皆さんは協会のホームページをご覧になったことはありますか？先日、会員施設の若手職員の方にアンケートを取らせて頂いたところ、ほとんどの方が「見たことがない」という残念な結果でした。それで、5月から一念発起して協会からのお知らせや開催した研修会の資料等をアップしています。毎月更新してゆく予定です。ホームページも見ていただけたらと思います。会員ページをご覧いただくにはユーザ名とパスワードが必要です。ご不明の場合は事務局にお問合せください。新しい広報委員会とこれからの活動にご協力よろしく願います。

（広報委員長 丸山 攝）



平成 29 年 1 月～ 6 月 活動報告

1 月

- ・ 障害者グループホームへのスプリンクラー設備の設置について勉強会（16日）
- ・ 児童発達支援部会通園施設分科会研修会（18日）
- ・ 児童発達支援部会障害児入所施設分科会研修会（19日）
- ・ 地域支援部会施設見学（19日・26日）大阪府砂川厚生福祉センターつばさ見学
- ・ 平成28年度「集まれグループホーム」（21日）
- ・ 平成28年度中堅職員研修（支援スタッフ委員会合同）（23日）

2 月

- ・ 平成28年度第5回障害者支援施設部会幹事会（3日）
- ・ 平成28年度第5回障害者支援施設部会施設長会（10日）
- ・ 児童発達支援部会障害児入所施設研修会（16日）
- ・ 平成28年度第8回日中活動支援部会・生産活動・就労活動支援部会（22日）風の子そだち園見学
- ・ 地域支援部会短期入所分科会（24日）

3 月

- ・ 権利擁護委員会（2日）
- ・ 機関紙「トライアングル」2016秋・冬号発行（7日）
- ・ 地域支援部会グループホーム分科会（13日）
- ・ 児童発達支援部会障害児入所施設分科会「卒業おめでとう交流会」（15日）
- ・ 平成28年度第3回理事会（17日）
- ・ 平成28年度障害者支援施設部会幹事会意見交換（21日）
- ・ 平成28年度第9回日中活動支援部会・生産活動・就労活動支援部会施設長会（23日）

4 月

- ・ 平成29年度第1回障害者支援施設部会施設長会（17日）

5 月

- ・ 平成29年度近畿地区知的障害者施設協会総会（10日）
- ・ 平成29年度第1回障害者支援施設部会幹事会（11日）
- ・ 会計監査（12日）
- ・ 第51回大阪知的障がい児・者合同ソフトボール大会抽選会（19日）
- ・ 権利擁護委員会（31日）

6 月

- ・ 第51回大阪知的障がい児・者合同ソフトボール大会（1日）

- ・ 平成29年度総会及び研修会（12日）
- ・ 機関紙「トライアングル」編集会議（15日）
- ・ 児童発達支援部会通園施設分科会（28日）

※役員会は毎月第3金曜日に開催

一般社団法人大阪知的障害者福祉協会 総会・研修会を開催致しました

平成29年6月12日（月）ホテルアウィーナ大阪にて、一般社団法人大阪知的障害者福祉協会総会を開催致しました。当日の出席者98名と書面による議決権行使50名、計148名会員事業所の承認を得て、全ての議案が承認されました。

冒頭、松上会長より協会の今後の活動について、会員事業所相互の連携を強め、厳しい運営環境に対しての情報提供を行っていくとの挨拶がありました。

今年度も、会員事業所の皆様方のご協力のもと各部会・委員会活動の充実に努め、研修会の開催やホームページ更新による情報提供を積極的に進めてまいります。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

総会終了後、引き続き行われた研修会では、114名の方に参加をしていただきました。前半に大阪府障がい福祉室障がい福祉企画課の北村孝史氏から、第4次障がい者福祉計画についての説明があり、後半は一般社団法人FACEtoFUKUSIの池谷徹氏、岩本恭典氏より、「これからの人材確保と育成・定着」というテーマでご講演をしていただきました。

（事務局長
中川 博）

